

研究区分	教員特別研究推進 地域振興
------	---------------

研究テーマ	医療の場における「やさしい日本語」のシナリオ集の作成 －多言語音声翻訳ツールを活用して－				
研究組織	代表者	所属・職名	看護学部・講師	氏名	濱井 妙子
	研究分担者	所属・職名	淑徳大学看護栄養学部・准教授	氏名	永田 文子
		所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
	発表者	所属・職名	看護学部・講師	氏名	濱井 妙子

講演題目	医療の場における「やさしい日本語」のシナリオ集の作成－多言語音声翻訳ツールを活用して－
研究の目的、成果及び今後の展望	<p>【目的】言語が多様化する医療の場で多言語翻訳ツールを適切に活用するために、翻訳アプリの精度を向上させる日本語表現を検討し、「やさしい日本語」のシナリオ集を作成することを目的とする。</p> <p>【方法】昨年度の実験で明らかになった機械翻訳のエラー発生理由に基づいて、医療現場における患者と医療スタッフの会話シナリオの日本語表現ならびに医療の場に適した単語・フレーズの選択について検討し、シナリオのセリフを修正した。対象は、言語は英語、翻訳アプリは VoiceTra ver.8.7.1 (iOS版) と POCKETALK とした。対象の場面は、総合受付、診察室、血液検査室、会計、院外薬局、呼吸器内科診察室など9場面とし、エラーの少ない日本語表現を検討し、シナリオのセリフ集を作成した。</p> <p>【結果】場面1は総合受付で日本語の確認(日本語が通じるか)に関する8セリフ、場面2は総合受付で来院状況に関する9セリフ、場面3は総合受付で来院理由や一般事項の確認に関する11セリフ、場面4は内科診察室での初診患者に関する7セリフ、場面5は血液検査室で採血に関する5セリフ、場面6は内科診察室で検査結果の説明に関する4セリフ、場面7は会計に関する8セリフ、場面8は薬局での薬の説明に関する4セリフ、場面9は呼吸器科内科の診察室で COPD/慢性閉塞性疾患に関する会話の33セリフについて検討した。その結果、翻訳アプリが原文を正確に読み取り、適切に翻訳するためには、長いセリフは2つのセリフに区切ること、否定疑問文を肯定疑問文に言い換えること、指示代名詞を具体的に言い換えること、適切な主語と目的語、接続詞を加えて文を補完すること、冗長な表現や曖昧な表現は削除すること、発音を明確にすることが必要であり、翻訳アプリを活用することで、原文をわかりやすい平易な文にすることができた。このことから、翻訳アプリを活用して「やさしい日本語」を検討することは可能である一方で、翻訳アプリは随時バージョンが更新されているため、一昨年度と昨年度に比べて読み取りや翻訳精度が向上しており、限界はあるものの難しい医療専門用語も翻訳できるようになっていた。一昨年から COVID-19 感染症拡大の影響により、遠隔通訳や翻訳アプリの活用が普及してきたが、医療の場では情報の受け手側にきちんと伝わっているか、理解できているかという観点から、情報の提供方法についてさらなる検討が必要であると考えます。</p> <p>【今後の展望】翻訳アプリを活用して、医療の場における会話について「やさしい日本語」を検討することが可能であることがわかった。そのため、情報の受け手側によりわかりやすく伝えるという観点を踏まえ、外国人患者や市民向けの病気や健康に関する情報資料や医療機関で使われている説明文書について、その読みやすさ、わかりやすさについて翻訳アプリを活用して検討していく。</p>